目　次

はじめに……1
第1章　左翼の終わり……
1　あさま山荘事件と一九七〇年代　2
2　「運動」する大衆の終わり　13
3　ベ平連とウーマンリブ、反復帰論　25
第2章　豊かさの幻影のなかへ……41
1　高度経済成長の頂点で　42
2　消費社会と都市の若者たち　52
3　重厚長大から軽薄短小へ　62

第3章　家族は溶解したか……79
1　変容する日本人の意識　80
2　郊外化と核家族の閉塞　88
3　虚構の世界へ　99
第4章　地域開発が遺したもの……117
1　反公害から環境保護へ　118
2　地域開発とリゾート開発の結末　127
3　農村崩壊と地域自治への模索　143
第5章　「失われた一〇年」のなかで……157
1　震災・オウム・バブル崩壊　158
2　国鉄民営化から郵政民営化へ　169
3　拡大する格差　184

第6章　アジアからのポスト戦後史……197
1　企業の海外進出と産業空洞化　198
2　「海外」の経験・「日本」の消費　207
3　「戦後」の問い返しと日米関係　219
おわりに……233
あとがき　239
参考文献
略年表
索　引